
縁側とはさみ

かにお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
縁側とはさみ

【Nコード】
N4437I

【作者名】
かにお

【あらすじ】
美容師を目指す姉と、その弟の話。

(前書き)

短編というよりも。

「美容師になりたい」

姉がそうこぼすようになったのはいつからだったろう——夕暮れの縁側で、僕は思う。

冬だったような気がする。記憶に残る姉の姿が、暖かそうなはんとんを身にまとっているから。

実家の狭いリビングに、こたつがある。僕と、母と父と、それから姉がくるまっている。

みんなでテレビを見ているとき、不意に姉が呟く。

「私、美容師になりたい」

そのあとの両親の反応も、姉の行動も、いまひとつよく覚えていない。だというのに、テレビで笑い声が弾けたことだけを、妙にはつきりと覚えている。

シャン、

鉄と鉄のこすれる音で、想い出の海から現実に引き揚げられる。シャン、シャン

あるときは続けざまに、またあるときは動きあぐねるようにしばらく止まってから、耳に心地の良い音が届く。

少しずつ、目の前の景色がはつきりしてきた。

灰色のアスファルトに、みかん色の光が降り注いでいる。その向こう側に、小さな二階建てのアパートがある。ゆるやかな風が吹いて、二階のベランダで洗濯物が揺れた。

僕は、道路に面した縁側に腰掛けている。

「起きましたか？」

頭上から、おどけた調子の声がする。

「起きましたよ」

言って、居住まいを正す。無理な体勢でうつとしたものだから、少しばかり体が痛む。

「もうちよつとで終わるからね」

姉の言葉に、「うん」と返す。

シャン、シャン

音に合わせて、頭が軽くなっていく。

シャン、シャン

目の前の道路を、乗用車が横切っていく。後部座席の窓から、犬が顔を出していた。

シャン、シャン

アパートの一階から、細身の男の子が出てきた。忙しい様子で自転車に跨り、離れていく。

シャン、シャン

はさみの音に誘われて、再びうつらうつらとはじめる。

（後書き）

お試し投稿でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4437i/>

縁側とはさみ

2010年10月22日09時15分発行